

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	H27目標値	
<b>1. 使命と計画</b>					
<b>① 中長期計画</b>					
A. 目標と計画・重点事業の構築、事業への活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標の設定、具体的計画の策定状況</li> <li>・ 事業への活用状況</li> </ul>	中長期計画の策定と遂行	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年次計画はあるか。→ Yes</li> <li>○ 事業等の優先順位を付けているか。→ Yes(年次計画による優先順位)</li> <li>○ 実施スケジュールを立て予算要求しているか。→ Yes(年次計画による要求)</li> <li>○ 事業実施に至っているか。→ Yes(年次計画に沿った運営を行っている)</li> </ul>	継続実施	<p>【課題】 目標を着実に達成する。</p> <p>【改善案】 状況に応じて年次計画の見直しを行う。</p>
有識者所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年次計画に沿って、事業を行ってください。【戸枝】</li> <li>・ 県内の中核館であることから、研究成果の県民への普及(入館者数、HPアクセス数)について、他館の範となる施策展開を願いたい。また、他館と連携した企画の中核的な役割を果たされることを願います。【加藤】</li> </ul>				
<b>② 評価の実施</b>					
A. 評価の実施と結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価及び外部評価の実施状況</li> <li>・ P.D.C.A.サイクルへの反映状況</li> </ul>	自己評価の実施評価結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己評価を行っているか→ Yes</li> <li>事業活動の結果を年次報告(評価調書)として集約し、それに基づいて、当該年度の計画達成度を評価している。</li> <li>○ P.D.C.A.サイクルに反映されているか→ Yes</li> <li>事業年次計画のうち、当該年度の計画達成度をその内容、数値等で検証し、次年度以降の計画を見直すこととしている。</li> </ul>	継続実施	<p>【課題】 組織的な課題や問題について、全職員が一丸となって取り組む体制の強化</p> <p>【改善案】 資料の回覧、ネット環境を活用した伝達等によって、情報の透明性と共有化を図り、各職員の当事者意識を高める。</p>
有識者所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題解決について、工夫してください。情報共有が大切だと思います。【戸枝】</li> <li>・ 各評価項目について、可能な限り実績値を把握し、目標値を設定して事業実施を願いたい。【加藤】</li> </ul>				
<b>2. 組織と運営等</b>					
<b>① 組織・人員</b>					
A. 職員の研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修への参加体制の整備状況</li> <li>・ 参加状況(種類・件数・人数)</li> </ul>	職員研修を受講するための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員が積極的に参加できる体制をとっているか→ Yes</li> <li>外部より通知された各種研修会等の案内は、職員に回覧し、希望する職員には、可能な限り受講・参加の機会を与えている。(国関係研修)</li> <li>・ ミュージアムエドゥケーター研修 1人</li> <li>・ 図書館等職員著作権実務講習会 1人</li> <li>・ 文化財IPMコーディネーター資格取得講習会 1人(県関係研修)</li> <li>・ 千葉県美術館・博物館等職員研修 3人</li> <li>・ 千葉県博物館協会研修会 5人</li> <li>・ 千葉県文化財管理指導講習会 3人</li> </ul>	継続実施	<p>【課題】 研修の成果を館運営に反映させる。</p> <p>【改善案】 研修参加者は参加報告を適切な時期及び内容で行うとともに、研修内容を関係職員間で共有する。併せて、研修成果の当館運営への反映について、適切な部署で討議する。</p>
有識者所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結果所見について、継続してください。県外で実施される研修への参加は他機関職員との情報交換の機会でもあります。【戸枝】</li> <li>・ AED使用対応研修については実施されていると思うが、頻度を上げるよう要望します。【加藤】</li> </ul>				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	
②県民ニーズに則した運営					
A. 利用者数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該年度の利用者数</li> <li>・前年度比較による傾向</li> </ul>	前年度比で、 本館 110% 大利根分館 100% 大多喜城分館 105%	○利用者数に関して、総人数、小中高大学生、団体等の分類で算出する。(括弧内は前年度) <b>【本館】</b> 総入館者数: 197,601人 (184,059人: 107%) 個人: 134,165人(160,909人)、 団体: 173団体8,399人(158-8968人) 主催行事参加者総数: 10,334人(12,890人) HPアクセス数: 102,684件 (280,565件) <b>【大利根分館】</b> 総入館者数: 37,811人(36,801人: 103%) 個人: 14,655人(14,512)、 団体: 52団体2,048人(93-2,291) 主催行事参加者総数: 21,946人(11,712人) HPアクセス数: 10,768件 (14,058件) <b>【大多喜城分館】</b> 総入館者数: 104,134人 (82,292人: 127%) 個人: 96,414人(75,855人)、 団体: 217団体7,720人(177-6,437人) 主催行事参加者総数: 4,868人 (3,575人) HPアクセス数: 30,802件 (29,541件)	前年度比で 本館 104% 大利根分館 100% 大多喜城分館 101%	<b>【課題】</b> 平成27年度目標値の達成に向けて、本館と大多喜城分館においては入場者数の段階的向上 H27総入場者数目標値 ・本館 250,000 ・大利根分館 23,000 <b>(達成済み)</b> ・大多喜城分館 96,000 (H26達成) <b>【改善案】</b> 学校等の団体に充実したサービスを提供し、団体利用者数の高位安定化と新規開拓に努め、常設展示利用者のペースアップを図る。
B. 満足度・ニーズ等の調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施方法と結果</li> <li>・結果の事業への反映状況</li> </ul>	利用者満足度に関する調査の実施	○マーケティング等の調査を行っているか→ Yes(利用者満足度をアンケート調査) ・常設展示室に、自由記載方式のアンケート用紙を常備しており、意見等については、適時、館内周知し、回答の必要な件に関しては速やかに回答している。 ・企画展開催期間中は、展示会場内にアンケート用紙を設置している。 ・本館企画展「図鑑大好き！」アンケート回収数は211件であった。 ・大利根分館企画展「香取海がもたらしたもの」でのアンケート回収数は211件であった。 ・大多喜城分館企画展「大河内松平家と大多喜」でのアンケート回収数は1,920件であった。	継続実施	<b>【課題】</b> 展示会における指摘事項の担当者間での継承 <b>【改善案】</b> 展示会アンケートでの観覧者からの指摘事項(善悪にかかわらず)については、反省会を開催し、当該担当者から次回担当者へ確実に引き継ぎ、改善につなげる。
有識者所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の内訳はどうでしょう。館によっては成人団体の利用が目立っているのではないのでしょうか。大利根、大多喜とも季節や天候にも入館者数が影響されているのでは。改善案に沿って実施してください。常設展示の方法も考える必要があるでしょう。【戸枝】</li> <li>・入場者数について問題ないが、本館HPへのアクセス数の激減について、ハッキリとした原因はあるのでしょうか？情報更新回数を3倍にしたのになぜ？【飯田】</li> <li>・アンケートについては、自由記入式より簡単な設問用紙を入館時に配付する方法もあると思います。サンプル数が増えると思います。大多喜城の回収数が多い。回答者の属性はどうでしょうか。今後の活動に生かしてください。【戸枝】</li> <li>・マスコミへの投げ入れについては、視点を変え、さらに頻度を上げていただくようお願いしたい。また、HPには周辺情報を含めて、発信することでリピーターも増加するので、周辺施設との情報発信の連携を願いたい。【加藤】</li> </ul>				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
<b>3.施設・設備</b>					
①アメニティーの向上					
A. バリアフリー	・バリアフリー対策の実施状況	非バリアフリー施設・設備の改善(大多喜城分館のバリアフリー化については、進行中)	○万人に対応した受け入れ態勢がとられているか→Yes(本館・大根) / No(大多喜) ○大多喜城分館には、エレベーターが無く、車椅子利用者等の入館には、職員による介助で対応している。	継続実施	【課題】 大多喜城分館へのエレベータ設置 【改善案】 耐震補強工事の際に合わせて実施する。
B. アクセス	・交通機関(含誘致)と駐車場の状況  ・アクセス案内の状況	サインの見直しと改善(路上サイン設置については、関係部局への働きかけ継続)	○交通関連のサインが適切に配置されているか。→No(道路標識の増設が必要) ○館へのアクセスのインフォメーションが迅速かつ分かりやすく行われているか。→Yes(電話・ネット等では適切)	継続実施	【課題】 車で来館する利用者向けの案内表示 【改善案】 道路標識の増設について関係部局への働きかけを継続して行うとともに、引き続き、インターネット上でのわかりやすいアクセス情報の提供に努める。
C. ミュージアムショップ	・利用者満足度とニーズの把握状況 ・結果の反映状況	ミュージアムグッズの開発	平成26年度からNPOの運営となったが、遺漏なく運営されており、新たなミュージアムグッズ開発のための博物館との企画会議を行った。	継続実施	
有識者所見		・大多喜城のエレベーター案もあるが、車いすを運ぶ装置についても検討してください。【戸枝】 ・全ての館で身障者用トイレ整備と表示類について見直してください。車いす利用者の意見を聞くことも必要かもしれません。【戸枝】 ・カーナビと標識の関係だと考えます。アンケートで訪ねてみたらどうか。【戸枝】 ・アクセスのサイン改善については、早急の実施されたい。【加藤】			
<b>4.財源</b>					
①予算の確保					
A. 入場料収入・その他の事業収入	・当初計画に対する収入の達成状況	当初入場料収入計画 本館 9,905千円 大根分館 702千円 大多喜城分館 7,253千円	○入場料収入 実収入(計画達成率%) 【本館】 5,709,950円 (57%) 【大根分館】 454,480円 (65%) 【大多喜城分館】 7,259,750円 (100%)	当初入場料収入計画 本館 8,859千円 大根分館 702千円 大多喜城分館 7,256千円	【課題】 収入減による特定財源予算の大幅な年度末減額措置を防ぐ。 【改善案】 企画展等の事業については、歳入予算計画との大きなずれが生じないように、収入達成に向け努力する。とくに本館については、年度間の収入額に大きな変動が起きないように努める。
有識者所見		・企画展内容によっては、入館者層が異なるので、収入減になるのでしょうか。【戸枝】 ・本館の入場料実績値が目標を大きく下回った原因を究明し、本年度以降の施策に反映させていただきたい。【加藤】			
②館独自の財源獲得					
A. 外部助成金等の獲得	・獲得計画に対する達成状況	継続実施と採択増加を目指す	○外部資金(含県関連財団)を申請しているか。→Yes ○外部資金(含県関連財団)を獲得しているか。→Yes 20件 22,542,000円 内訳 ・文科省科研費 14件(11件) 12,160,000円 (18,160,000円) ・その他の研究費 6件(7件) 10,382,000円 (25,877,160円)	継続実施と採択増加を目指す	【課題】 外部資金獲得を博物館の恒常的な機能向上につなげる 【改善案】 文科省により27年度から科研費等の外部資金獲得の要件となった、研究不正対応等のルールの整備と研究倫理教育を適切に進める。
有識者所見		継続してください。外部資金獲得は館活動の実績。向上と広報にもあります。【戸枝】			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目					
5.収集・保存及び活用					
①資料の管理と収集					
A. 収蔵点数と収集 点数	・ 収蔵資料の件数と点数	資料数の増加	○台帳登録点数 【本館】 870446点(前年度 834038点) 【大利根分館】 3698点(前年 度3698点) 【大多喜城分館】 1910点(前 年度1916点) 前年度からの減少は受託資料 の返却による ○外部資金が獲得できている か。→ Yes	継続実施	【課 題】 予算不足 【改善案】 購入については、難しい状 況にあるが、必要不可欠 なものについては基金を 活用する。寄託、寄附につ いては職員個人の努力に より収集を進める余地が ある。
	・ 新収集資料の件数と点数	新資料の収集	○寄贈・購入(平成26年度新 規分) 【本館】 寄贈 地学資料:3件2式1点、 動物資料:1件1点、生態環境 資料:3件19点 購入 図書資料:27点、雑誌: 340点 館員による収集 動物資料: 6536点、植物資料21007点、菌 類資料:1995点、地学資料: 1014点、生態環境資料:1062 点、図書:27点、雑誌:340点 (合計:35283点) 【大利根分館】 0件 【大多喜城分館】 寄託:66件803点	継続実施	【課 題】 予算不足 【改善案】 購入については、難しい状 況にあるが、必要不可欠 なものについては基金を 活用する。寄託、寄附につ いては職員個人の努力に より収集を進める余地が ある。
B. 登録	・ 収蔵資料の管理(台帳等 整備)状況	登録数の増加	○台帳登録点数 【本館】 870446点(前年度 834038点) 【大利根分館】 3698点(前年 度3698点) 【大多喜城分館】 2005点(前 年度2011点) 前年度からの減少は受託資料 の返却による ○外部資金が獲得できている か。→ Yes	登録数の増加	【課 題】 収蔵備品、消耗品購入予 算の欠乏、不足、マンパ ワーの不足 【改善案】 備品費、消耗品費、賃金 の必要性を強くアピール し、県費による予算を確保 する。外部資金の獲得、 個人の研究助成金などの 獲得に努める

大項目		自己評価			課題と改善案		
中項目	細目	評価の視点	H26目標値	結果・所見		H27目標値	
C. 維持管理と修復・保存処理		<p>・ 定期的な維持管理の実施状況</p> <p>・ 資料の修復作業・保存処理の状況</p>	<p>・ 収蔵庫及び収蔵資料の定期的な状態把握と状況に応じた対処</p>	<p>○定期的に維持管理が行われているか。→Yes</p> <p>○収蔵庫の温湿度管理は適切か。→Yes</p> <p>○収蔵庫の入出者等を管理しているか。→Yes</p> <p>収蔵資料の維持管理は、各担当者が適宜行っている。また、収蔵庫の環境管理は、資料管理研究科と設備管理委託業社により、適宜行うとともに、職員により定期的に収蔵庫の清掃を行っている。収蔵庫の出入りは資料毎の管理班員に限っており、部外者の出入りにも必ず職員が立ち会うようにしている。</p>	継続実施	<p>【課題】老朽化した本館空調設備の改修</p> <p>【改善案】博物館資料を積極的に活用し、県民資産としての博物館資料の認知度を高め、中長期の視点に立った空調設備の改修計画について、主務課との協議を開始する。</p>	
			<p>・ 資料の状態に応じた適正な保存処理の実施</p> <p>・ 予算の確保</p>	<p>○資料の保存処理が適切に行われているか。→Yes</p> <p>○保存処理の予算要求を行っているか。→Yes</p> <p>収集から収蔵までの資料の保存処理は各資料系ごとに処理過程が異なるが、収集から収蔵まで担当研究員が責任をもって処理している。ただし燻蒸釜による処理については、資料管理研究科が実施。</p>	継続実施 予算の確保		<p>【課題】IPMの徹底</p> <p>【改善案】IPMの手法についての職員の認知を深める</p>
			<p>・ 資料の状態に応じた適正な保存処理の実施</p> <p>・ 予算の確保</p>	<p>○修復作業の予算要求を行っているか。→Yes</p> <p>修復が必要な資料の手当は、各担当者が随時手作業で行っているが、展示資料も含め大規模な資料修復の予算は獲得できていない。</p>	継続実施 予算の確保		<p>【課題】館内部での修復技術者の確保と養成</p> <p>【改善案】当面は、外注に必要な予算要求を継続する。</p>
			<p>・ 収集資料の台帳登録による管理</p>	<p>○収蔵資料を管理しているか。→Yes</p> <p>登録資料は、紙ベースの台帳と情報システムによる電子データで管理している。</p>	継続実施		<p>【課題】未整理資料の蓄積</p> <p>【改善案】整理の遅れている分野について重点的に整理を進める。</p>
有識者所見		<p>・ 博物館の存在意義はコレクションにあると考えます。改善案に沿って進めてください。【戸枝】</p> <p>・ 資料管理は適切に行われていると思います。空調機器の不具合発生は資料にダメージを与えかねません。【戸枝】</p> <p>・ 燻蒸について、十分注意して行ってください。【戸枝】</p> <p>・ 要修復資料の優先順位を見積を作成し、予算獲得の努力をしてください。【戸枝】</p>					
③図書室の公開							
A. 図書資料の閲覧		<p>・ 閲覧システムの構築状況</p> <p>・ 利用状況と利用者満足度</p>	<p>利用者の増加</p>	<p>○図書の閲覧が行われているか。→Yes</p> <p>無料ゾーンの図書閲覧コーナーに図鑑・一般向けの図書を配架し、来館者が自由に閲覧できるようにしている。また、書庫の専門図書は希望があれば職員が出納し、閲覧コーナーでの閲覧が可能である。貸出はできないが著作権法第31条でのコピーが可能である。</p>	継続実施	<p>【課題】情報システムでの蔵書目録の公開準備に努める。</p> <p>【改善案】登録点数を増やす</p>	
有識者所見		<p>・ 結果所見について、継続してください。【戸枝】</p>					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目					
②資料の活用					
A. 要望に応じた貸出等	・研究や展示等、資料の貸出状況	昨年度並みの実施を目指す	○要望に応じて資料を貸出等(閲覧・撮影・貸出・デジタル情報複製)をしているか。→ Yes 件数内訳: 【本館】 110件1555点(内デジタル48件216点) 【大根分館】 19件265点(内デジタル11件193点) 【大城分館】 38件57点(内デジタル34件39点) 資料貸出し要請に対しては、各担当者が依頼者の所属や申請された使用目的から妥当性を判断し、適正に対処している。 前年度: 【本館】 122件3091点(内デジタル42件278点) 【大根分館】 11件48点(内デジタル3件22点) 【大城分館】 44件81点(内デジタル35件65点)	継続実施	【課題】 職員減、利用件数増加による業務量の増加。 【改善案】 (1)事務処理の効率化 (2)当館ウェブサイトにおける、利用手続きの周知。 情報システムに画像付きの登録件数を増やす。
有識者所見		・申請の妥当性を判断し、対処していると思います。【戸枝】			
6.調査・研究					
①調査事業					
A. 調査事業の件数	・使命に基づく調査研究の実施状況	使命に基づいた調査研究活動の実施	○調査・研究を計画的に行っているか。 → Yes(研究課題95件) 内訳(括弧内は前年度) 重点研究課題 3件(3件) 地域研究課題 51件(43件) 普遍研究課題 41件(35件)	継続実施	【課題】 調査・研究の時間を確保し学術研究のレベルをアップする。職員が高齢化・多忙化するなかでの研究活動へのモチベーションを維持する。 【改善案】 他の業務とのバランスを考慮しつつ、業務の効率化を進める。外部資金申請などに際して幹部職員への説明会を開き、研究活動への共通理解と課題共有を図る。
有識者所見		・課題についても、深刻な事態だと考えます。改善案に沿って、進んでください。【戸枝】			
②外部との調査・研究					
A. 外部との調査研究の件数	・共同研究等の実施状況	使命に基づいた調査研究活動における外部団体との共同	→ Yes ①件数:13件 前年度比:76%(平成25年度17件) ②共同研究の相手はどこか 国立歴史民俗博物館5件 東京大学総合研究博物館2件 慶応大学、国立環境研究所、中国科学院昆明植物研究所、ニュージーランド国立水圏科学研究所、オタゴ大学(ニュージーランド)、国立科学博物館	継続実施	【課題】共同研究の機会の確保 【改善案】 他機関の専門家や施設設備との協力関係の維持発展こそが、魅力的な展示等の県民サービスの向上にもつながることを内外にアピールする。共同研究開始時に幹部への説明会を開き、共同研究への共通理解と課題共有を図る。
有識者所見		・外部との連携、研究は、館の活動を活性化させるでしょう。職員のレベルアップにもつながると思います。継続できるよう努力してください。【戸枝】			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目					
<b>③研究成果の発表</b>					
A. 展示等への反映	・ 展示への反映状況	反映の充実を目指す	○研究成果を展示に反映させているか。→ Yes (括弧内は前年度) 展示件数: 65件(31件) 【本館】56件(22件) 【大利根分館】4件(4件) 【大多喜城分館】5件(5件)	継続実施	【課題】 展示の数的質的な向上に研究成果が不可欠であることをさらにアピールする。 【改善案】 先進的な研究や千葉県に根ざした地域研究などの研究成果が、訴求力のある展示にもつながるように、研究過程で魅力的な実物・写真などを収集する。また研究過程での人脈形成によりそれらの補完を図る。
B. 研究成果の学術的公表(館独自項目)	・ 学会誌や館の報告書等への論文等執筆・公表状況	充実を目指す	○論文執筆を行い、発表を行っているか。→ Yes (括弧内は前年度) 内訳 ・学術論文 89件(81件) ・学術報告書 37件(37件) ・普及書 102件(115件) ・口頭発表 94件(74件)	継続実施	【課題】 論文等の執筆の時間とモチベーションの確保 【改善案】 上司や同僚が執筆時間の確保に配慮するとともに、執筆成果に対し、積極的に評価するようにする。また、業務に無理のない範囲で執筆機会をなるべく生かすように図る。
有識者所見					
<b>7. 展示</b>					
<b>①常設展示</b>					
A. 展示の更新と保守・点数	・ 展示替の実施状況  ・ 保守・管理の実施状況	計画的な展示後進の実施  ・ 計画的な保守の実施 ・ 予算確保を目指す	○展示替えについての計画があるか。→ Yes ○計画通りに展示替えが行われているか。 → Yes (括弧内は前年度) 15回20点 (6回14点)  ○保守や管理の計画があるか。→ Yes ○計画通り行われているか。 → No ○保守・管理のための予算要求を行っているか。 → Yes ○展示中の事故は無かったか(職員・来館者)。 → Yes(無し)	継続実施  継続実施	【課題】 展示更新の成果を入場者増に結び付ける。 【改善案】 展示更新の効果的な広報、展示解説等のサービスの実施。  【課題】 展示設備及び展示情報の老朽化・陳腐化への対応 【改善案】 利用者の安全性と快適性を確保するため、基本的な展示設備・備品の修繕予算を長期的な視点に立って要求する。同時に、予算をかけない情報更新の手法も検討する。
B. 満足度	・ 利用者満足度の把握状況結果の反映状況	満足度アップを目指す	○常設展示においては、意見箱を設置しており、入館者の意見を聴取している。 ○回答の希望者に対しては、適時、文書及び電話等において回答している。	継続実施	【課題】 利用者満足度の向上とリピーター増を結び付ける 【改善案】 本館における約7000点の常設展示物を最大限有効活用するため、学校の学年・教科別の解説内容の変更、市町村に関連する展示品リストなど、利用者層に配慮したきめの細かい展示サービスを提供し、利用促進を図る。
有識者所見 ・研究成果は必ずしも大々的な展示にならないかもしれませんが、常設展・トピックス展への発表は広報にも使用できるし、常設展での目先を変える効果も期待できます。【戸枝】 ・資料保存の上でも定期的展示替えは必要です。【戸枝】 ・本館常設展示のリニューアルに向けた検討を進めていただきたい。【加藤】					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目					
②企画展示(変更)					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施状況</li> <li>・ 年齢・地域等入場者の動向把握</li> <li>・ 来館者満足度の状況</li> </ul>	各館1回  Yes or Noアンケート実施  各項目80%以上	○展示企画数(括弧内は前年度) 【本館】1回(1回)、 【大利根分館】1回(1回)、 【大多喜城分館】1回(1回)  ○入場者情報の把握を行っているか。→Yes 企画展毎に展示室にアンケート用紙を設置し、展示担当者が、入場者動向の分析を行っている。  ○企画展毎に入場者アンケートを実施。 「図鑑大好き」アンケート結果は、 ・展示テーマ設定:とても良い、良いが90.0% ・展示のわかりやすさ:ちょうど良いが79.0% ・全体の満足度:とても良い、良いが78.0%  「香取海がもたらしたもの」(大利根)アンケート結果は、 ・展示の満足度:満足93% ・展示の見やすさ:見やすかった87% ・展示のわかりやすさ:わかりやすかった91%  「大河内松平家と大多喜」(大多喜)アンケート結果は、 ・展示の満足度:満足63% ・展示の見やすさ:見やすかった90% ・展示のわかりやすさ:わかりやすかった83%	継続実施  継続実施  各項目80%以上	【課題】 アンケート結果を次期以降の展示計画に反映 【改善案】 アンケート結果から県民の興味・嗜好性を分析するとともに、各種動向に配慮した展示企画を立案し、利用者増を図り、利用者の満足度を高める。
有識者所見	・資料保存上でも、定期的展示替えは必要です。(特に人文系資料)定期的を実施されていると思います。【戸枝】 ・県民ニーズの把握は必要ですが、必ずしも迎合しなくてもよいと思います。研究の成果を企画展へ反映させてください。【戸枝】				
③企画展示(変更なし)					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何回展示企画を実施したか。</li> <li>・ 入場者の動向把握を行っているか。</li> </ul>	本館10回以上 大利根分館1回以上 大多喜城分館3回以上  Yes or Noアンケート実施	○展示企画実施数(括弧内は前年度) 【本館】24回(17回) 【大利根分館】3回(4回) 【大多喜城分館】6回(7回)  ○入場者情報の把握を行っているか。→Yes 企画展毎に展示室にアンケート用紙を設置し、展示担当者が、入場者動向の分析を行っている。	継続実施  継続実施	【課題】 アンケート結果を次期以降の展示計画に反映 【改善案】 アンケート結果から県民の興味・嗜好性を分析するとともに、世界遺産の富士山など各種動向に配慮した展示企画を立案し、利用者増を図り、利用者の満足度を高める。季節のイベントに応じた展示会の開催を試みる。
有識者所見	・各館展示の満足度が高く、企画や見せ方が良かったものと思います。【戸枝】 ・本館企画展の開催件数を増やすなど、入場者数の増加に繋がる施策を展開していただきたい。【加藤】				



大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	
<b>④館外での展示</b>					
A. 企画数、利用者数、満足度	・ 実施状況(要望件数等)	本館3回以上 大利根分館20回以上	○展示企画実施数 56件 【本館】 27回(さわやかちば県民プラザ2回、県立中央図書館3回、県立西部図書館4回、県立東部図書館1回、君津市生涯学習交流センター2回、谷津干潟自然観察センター、千葉工業大学、八千代市立郷土博物館、柏市教育委員会、袖ヶ浦市郷土博物館、君津市上総公民館、君津市亀山公民館、君津市清和公民館、君津市生涯学習センター、館山市コミュニティーセンター、行徳野鳥観察舎友の会、東海大浦安中学高等学校3回、東京大学千葉演習林など) 【大利根分館】 29件(学校向け移動展)	継続実施	【課題】 県立博物館の存在意義を県内各地に周知 【改善案】 出前展示の県内各地各層への貢献は達成されつつある。今後は、館内事業との運動性を高め、入館者増につながるよう努める。
	・ 利用者が満足しているか	満足度アップを目指す	○概ね満足してもらっている。 アンケートは一部でしか実施していないが、上記の結果を得ている。	継続実施	
有識者所見 ・ 課題にあるように館外での展示は館の存在と活動の周知ができる良い機会です。資料の保全には十分注意が必要です。【戸枝】					
<b>⑤他館との合同企画による展示</b>					
A. 企画数、利用者数、満足度	・ 実施状況(ネットワーク)	3回	○展示企画数 → 4回 ○ネットワークの活用 → Yes 【本館】トピックス展「新着資料展：19世紀のバラの世界ー森啓蔵書ー」(国立歴史民俗博物館)、「千葉県特別支援学校作品展」(千葉県特別支援学校長会)、トピックス展「新春写真展『房総の魅力ある風景ー南房総、大地と海と陽光のドラマー』」(森川隆氏、千葉日報社)、「生命のにぎわいー生命のびぎわい調査団生物多様性写真展ー」(自然保護課生物多様性センター)	継続実施	【課題】 館種を超えた広範な連携関係の確立 【改善案】 本館については県内最大規模の総合博物館であることと、大利根分館、大多喜城分館については、それぞれの地域における中核的な博物館であるという利点を活かし、県内の小規模館、文書館、図書館等、他の公共施設の状況に応じた連携展示企画を立案し、提案する。
	・ 利用者が満足しているか	アンケートによるニーズ把握を行う。	○概ね満足してもらっている。 ○「特別支援学校作品展」では、7日間の会期中に159名の利用があり、作品展には満足してもらっている。あわせて、各展示も見てもらおう好機となった。 アンケートは一部でしか実施していないが、上記の結果を得ている。	継続実施	
有識者所見 ・ 職員間の情報交換が合同企画による展示へと発展すると言えます。職員研修や研究会等を通して、合同企画の機会を探ってください。【戸枝】 ・ 本館においてはさらに他館との連携を強化され、共同企画展などの開催などで主導的な役割を果たすようお願いしたい。【加藤】					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	
8.教育普及事業					
①参加体験事業					
A.回数と参加者数、満足度	・種類と回数、参加者数	主催行事件数 合計 500件以上	主催行事件数 合計 500件(前年度543件) 【本館】 主催行事件数:308件 講座・観察会・展示関連行事・シンポジウム・講演会:173件 ミュージアムトーク・展示解説:135件 主催体験プログラム等(定期的実施) 三島小学校博物館(毎金)、中央博調査隊(随時)、森の調査隊(週末・夏休み)、とりの声キャッチ名人(毎土) 【大根分館】 133件 講座・子供教室・団体解説・いしぶみ調査隊等 【大多喜城分館】 121件 講座・体験教室・観察会・歴史教室・展示解説等	前年度並み	【課題】 主催行事件数が、週末日数や会場確保、事業効率の点からほぼ頭打ちにある中で、質的な改善。 【改善案】 当館の使命という点で、間口の広く敷居の低い親子向けなどの行事と、当館の特色や専門性を発信する行事の両者をバランスよく企画し、質的な改善を図っていく。
		定員の充足率 80%以上	○本館 15,714人 ○大根分館 4,766人 ○大多喜城分館 4,868人  *定員が設定された事業については、ほぼ前年度並み(平均90%)の充足率であった。	継続維持	【課題】 子ども向けイベントの充足率が高く、専門性のある大人向けの講座の充足率が低い傾向があり、事業の改良と専門性の維持との調整やメリハリ付与が必要。 【改善案】 利用者ニーズを考慮した事業内容と広報戦略等の改善を図る一方で、当館の専門性に根ざす講座や研究成果の還元の上で意義のある行事は充足率にかかわらず継続する。
	・参加者は満足しているか	各項目80%以上	○アンケートは実施せず 教育普及事業に関してはアンケート調査は実施していないが、どの講座等においても、大方定員に達しており、観察会等で人気のある講座は定員を大きく超え、抽選となるケースが多々ある。また、定員を設定していない自由参加の事業についても、1日100人を超える参加者があることから、満足度は高いと言っている。	継続維持	
有識者所見	・多くの事業を開催している。週末に集中するので、職員やボランティア等の配置も工夫されていると思います。リピーター確保に有効だと思います。【戸枝】				
②講演会・講座					
A.回数と参加者数、満足度	・各館使命に基づいた講演会をどのくらい行っているか。 ・講演会に参加した人数は何人か。  参加者は満足しているか。		8-①-Aに集約表記  8-①-Aに集約表記  8-①-Aに集約表記		
有識者所見	・企画展に関連した講演会、講座は展示理解とともに、リピーター増が期待できます。開催が週末に集中しますので、他業務とのバランスが必要でしょう。【戸枝】				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
A. 電話・来館面接等の質問	・件数と対応状況	誠実な対応	○県民からの問い合わせ等に対応しているか。→Yes 学習情報センターでの来館者対応実績 ・質問対応:162件+学情以外件1,100件 ・コピーサービス利用者:86件1050枚 ・書庫資料閲覧請求:17件139冊 電話等での問い合わせ対応 ・約1,200件	継続実施	【課題】 質問対応の意義を広く県民にアピール 【改善案】 問合せ実績をQ&Aとして公表するなど、広報活動に努める。
有識者所見		・質問のQ&Aは、館内で共有し、諸活動に反映させてください。【戸枝】			
②メディア					
A. 館事業(含調査研究)の情報提供	・提供件数	750回以上	○メディアへ館の情報を定期的に発信しているか。→ Yes 850回(768回) ○メディアからの協力要請に対応しているか。→ Yes 166件(83件) 【本館】 120件(58件) 【大利根分館】 20件(7件) 【大多喜城分館】 26件(20件) ○メディアへの掲載および放映は増えたか。 →Yes 件数199件 メディアへの情報発信は、簡潔で宣伝効果の高い広報資料を整え定期的実施している。24年度より、都内開催の在京メディアレジャー記者会での情報発信や県内ミニコミ誌、専門系雑誌など従来とは異なる提供先を増やす努力をしたため定期的な発信件数が急増した。各種メディアからの取材や館情報提供要請、ならびTV等の番組制作者からの協力要請には、原則的に全て対応している。専門分野における問い合わせ等はかなり多い。テレビCMや県のイベントへも積極的に協力した。	前年度並み	【課題】 広報効果の高い主要メディアの文化芸術欄・科学欄への常時掲載と共に、地域に密着した情報誌への掲載。情報提供の時期と企画の進捗状況のすり合わせ。役務費の確保。 【改善案】 魅力的な事業の企画立案とメディアへの効果的な情報発信のための館内努力。情報提供に係る役務費を確実に確保する。
有識者所見		・近年、露出が増えています。継続してください。【戸枝】 ・引き続き、積極的な発信を願いたい。【加藤】			
③ホームページ					
A. ホームページによる情報発信	・更新件数  ・資料登録件数の状況  ・アクセス数の状況	両分館に関して、アクセス数の増加	○定期的な更新がなされているか。→ Yes 【本館】352回(前年度100回) 【大利根分館】12回(12回) 【大多喜城分館】12回(12回) ○アクセス件数はいくらか。 【本館】102,684件(268,790件) 【大利根分館】10,768件(14,058件) 【大多喜城分館】30,802件(29,541件) ○システム登録点数はいくらか。 【本館】185,219点(179,054点) 【大利根分館】2,048点(2,048点) 【大多喜城分館】1,025点(1,030点)	アクセス数の増加	【課題】 HPアクセス数の増加 【改善案】 詳細なイベント情報をHPに掲載することにより、HPアクセスの増加及び来館者数の増加を図る。
有識者所見		・さらに情報更新頻度を向上していただき、アクセス数の閾値を超えていただきたい。【加藤】			

大項目		自己評価			課題と改善案	
中項目	細目	評価の視点	H26目標値	結果・所見		H27目標値
④刊行物						
A. 印刷物による広報	・種類と部数	効果的な印刷物の作成と配布	効果的な印刷物の作成と配布	<p>○印刷物等の刊行により、館事業の情報提供及び広報活動を計画的に適切な時期をもって行っているか。→ Yes 22種類(既存資料の増刷は除く) 【本館】 15種類 【大利根分館】 4種類 【大多喜城分館】 3種類</p> <p>○時期は適切か。→ Yes 次年度の年間行事予定や利用者案内/パンフは、前年度3月初旬、年報等、前年度活動は、年度内の早い時期を目指しているが、一部は年度末ギリギリとなってしまった。展示等の当該年度事業は、事業実施の約2カ月前までの完成を目指している。</p>	継続実施	<p>【課題】印刷費の恒常的な不足への対応 【改善案】一部の印刷物はウェブページ上からPDFをダウンロードできるようにする。</p>
	・配付等の状況	効果的な印刷物の作成と配布	効果的な印刷物の作成と配布	<p>○印刷物等の刊行により、館事業の情報提供及び広報活動を計画的に適切な時期をもって行っているか。 → Yes 22種類(既存資料の増刷は除く) 【本館】 15種類 【大利根分館】 4種類 【大多喜城分館】 3種類</p> <p>○時期は適切か。→ Yes 次年度の年間行事予定や利用者案内/パンフは、前年度3月初旬、年報等、前年度活動は、年度内の早い時期を目指しているが、一部は年度末ギリギリとなってしまった。展示等の当該年度事業は、事業実施の約2カ月前までの完成を目指している。</p>	継続実施	<p>【課題】印刷費の恒常的な不足への対応 【改善案】一部の印刷物はウェブページ上からPDFをダウンロードできるようにする。</p>
有識者所見	<p>・メディアには効果的な広報媒体(年間行事、広報チラシ)を配信してください。【戸枝】 ・可能であれば、全ての刊行物についてHPからのダウンロードも可能になるよう検討いただきたい。【加藤】</p>					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
10. 県民参画					
① 県民との協働					
A. ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活用システムの構築 登録者数と活動状況</li> <li>育成のための研修等の実施状況</li> </ul>	<p>ボランティアの有効活用と活動の場の増大</p> <p>効果的な研修の実施</p>	<p>○ボランティアを配置しているか。→ Yes 【本館】(展示室、生態園、資料整理、イベント、研究、ボランティア等7類型) ・人数: 158人(H27.3) ・活動日数: 881人日 【大多喜城分館】(体験教室) ・人数: 18人(H27.3) ・活動日数: 197人日</p> <p>○ボランティア育成の研修を行っているか。→ Yes (括弧内は前年度) 【本館】研修会: 4回62人参加 (5回85人参加) 【大多喜城分館】研修会: 2回17人参加 展示会にあわせた展示解説、図書室利用に関する研修会を行っている他、各活動毎に担当職員による研修を随時行っている。新人ボランティアについては、博物館概要、関係施設、展示についての研修も行っている。</p>	<p>継続実施</p> <p>継続実施</p>	<p>【課題】登録者数を増やし、生涯学習の場として活用してもらう。 【改善案】すべての業務について、ボランティア参画の可能性を検討する。</p> <p>【課題】ボランティアの士気の維持向上 【改善案】展示ボランティアと職員の意見交換会などにより、ボランティアが気付いた博物館運営の問題点を意見として汲みあげる仕組みを構築する。他の博物館のボランティアとの交流も進める。</p>
B. 県民からの情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報入手体制の状況</li> <li>対応状況</li> </ul>	<p>情報提供の受け入れと活用</p>	<p>○県民からの情報入手体制の有無→ Yes 当館では、個々の職員レベルで県民との双方向の交流が日常的になされており、実際、県民からの情報提供と大学との連携が元になって、植物の新種(イスマズズカケ)発見がなされるなど、県民からの情報が生かされている。</p>	<p>継続実施</p>	<p>【課題】 【改善案】特記事項なし</p>
C. 友の会	<ul style="list-style-type: none"> <li>会員数(増減)</li> <li>活動状況(館との連携・単独事業)</li> </ul>	<p>新たな支援組織の育成</p>	<p>○友の会活動が効果的に行われているか。→ No ・友の会は解散したが、平成26年に有志による9つの中央博サークルが結成され、館の支援や監修のもと活動を始めている。 会員数: 253人</p>	<p>継続実施</p>	<p>【課題】 【改善案】特記事項なし</p>
有識者所見	<p>・ボランティアの知識、技量が高い。各事業実施にあたって、存在は大きい。更なるスキルアップを期待します。各人の意識も高いと思います。【戸枝】</p> <p>・体制を維持して、有益な情報は公表し、情報網を拡大、深化させてください。【戸枝】</p> <p>・サークルとボランティアの関係を密にする必要があると思います。【戸枝】</p> <p>・友の会(新たな支援組織)の位置づけを明確にして、会員数の拡大を願いたい。【加藤】</p>				
② 外部との連携・調査					
A. 実施の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入態勢等の構築状況</li> <li>実施状況</li> </ul>	<p>効果的な連携事業の実施</p>	<p>○連携システムが構築されているか。→ Yes(本館のみ) (括弧内は前年度) ・市民団体・NPO等との連携事業 86件(58件) ・学会研究会等委員・役員 14件(76件)</p>	<p>継続維持</p>	<p>【課題】 【改善案】特記事項なし</p>
有識者所見	<p>・諸活動との調整が必要でしょう。【戸枝】</p>				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
11.人材育成					
①博物館実習					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況  ・ 回数、校数と参加者数	参加者数20名程度	○博物館実習を行っているか。→ Yes 16名(13校)9日間(自宅研修1日を含む) ・実施場所:本館 【前年度】 24名(14校)9日間 ・実施場所:本館 ・うち2名は大多喜城分館で4日間、別の2名は海の博物館で4日間実習	継続実施	【課題】 人数が多すぎて、時間的・スペース的に行き届いた指導が必ずしもできない。 【改善案】 人数を20名程度に抑えつつ、講義形式の授業を減らす一方、展示解説実技など自ら考える実習プログラムを増やす。
有識者所見					
②教員等研修					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況  ・ 回数、校数と参加者数	研修20回程度の実施	○教員研修を行っているか。→Yes (括弧内は前年度) 【本館】27件 1,023人(20件290人) 【大利根分館】0件 【大多喜城分館】0件(1件20人)	継続実施	【課題】 単なる教員研修ではなく、博物館を有効活用できる教員を増やすような研修機会の企画 【改善案】 博物館利用研修会等の継続的な開催や、教員団体系来館時の解説会の設定、総合教育センターと連携した博物館での教員研修プログラムの設定をおこなう。
有識者所見		・研修を通して、学校利用増と貸出キット増、出前授業増につなげたい。【戸枝】			
③職場体験学習・インターンシップ					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況  ・ 回数、校数と参加者数	職場体験50人程度 インターンシップ5名程度	○職場体験をうけいれているか。→ Yes (括弧内は前年度) 【本館】 ・職場体験(中学生):23校66人 (20校53人) ・インターンシップ 大学院生 1校1人 大学生 5校6人(5校5名) 高校生 3校4人	前年度並み	【課題】 職場体験は希望の時期的集中などもあって応じきれない。 【改善案】 館と学校・生徒の双方にとってメリットを生む職場体験内容への改善。
有識者所見		・博物館ファンを増やす機会であり、「すごい」「おもしろい」などの印象が大切だと思います。【戸枝】			
12.県民等からの依頼による学習支援					
①展示等の活用					
A. 解説の回数、利用者数と満足度	・ 回数と利用者数  ・ 利用者ニーズの把握状況	本館60回 大利根分館50回 大多喜城分館50回 以上	○展示解説を行うシステムがあるか。→ Yes 依頼を受けて行った団体解説 (括弧内は前年度) 【本館】 博物館学習対応 22件993人 (17件1,118人) その他団体解説 43件1,624人 (43件897人) 【大利根分館】 42件1,079人(55件9,734人) 【大多喜城分館】 96件3,647人(52件1,758人)	前年度並み	【課題】 外部からの依頼へのきめの細かい対応 【改善案】 学校団体には、来館時に、単なる見学ではないオーダーメイドの学習プログラム(博物館学習)を提供できる体制をさらに進める。
有識者所見		・展示解説は、展示理解に有効です。館のイメージアップになり、団体のレポートにつながります。【戸枝】			
②館内での講座・講演会					
A. 回数、利用者数と満足度	・ 回数と利用者数  ・ 利用者ニーズの把握状況	本館50回 大利根分館1回 大多喜城分館5回 以上	○講演会等の要望に応じるシステムがあるか。→ Yes (括弧内前年度) 【本館】33件605人(54件1,029人) 【大利根分館】 1件71人(3件98人) 【大多喜城分館】 8件418人(7件91人)	前年度並み	【課題】 【改善案】特記事項なし
有識者所見		・講座、講演会も館活動の周知につながり、情報収集の機会づくりにもなります。諸事業と調整して実施してください。【戸枝】			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目					
<b>③学校連携</b>					
A. 学校団体の受入	・ 受入校数と回数、人数  ・ 利用者ニーズの把握状況	本館95校 大利根分館65校 大多喜城分館25校	○要望に応じるシステムになっているか。→ Yes 内訳 【本館】 115校 6,287人 【大利根分館】 58校20,489人 【大多喜城分館】 53校2,113人 前年度 【本館】 94校 5,299人 【大利根分館】 65校 13,753人 【大多喜城分館】 27校 973人	前年度比で 本館 110% 大利根分館 100% 大多喜城分館 100%	【課題】 学校が校外に出られる時間数が減少する中で、学校団体の利用の維持・拡大(特に本館について) 【改善案】 教科学習の時間を使つての来館を促せるような、常設展・企画展示と教科との関連づけを図り、資料や展示室環境の整備や、その広報、周知活動に努める。
B. 出前授業	・ 実施校数と回数、人数  ・ 利用者ニーズの把握状況	本館35回 大利根分館20回 大多喜城分館2回以上	○出前授業の受け入れ態勢があるか。→ Yes 内訳(括弧内は前年度) 【本館】 48件1,307人(35件975人) 【大利根分館】 21件1,737人(22件6,619人) 【大多喜城分館】 2件84人(2件46人)	前年度並み	【課題】 学校の授業に役立つ博物館であることを県民に周知 【改善案】 学習キットなどを充実するとともに、館業務とのバランスをとりながら、学校のニーズに合った研究員派遣の体制を整備する。
有識者所見		・属性調査をして、効果的な広報を行い、更なる入館者増を図りたい。【戸枝】			
<b>④外部講師依頼</b>					
A. 依頼の状況、回数と人数	・ 支援体制の状況  ・ 回数と参加者数  ・ 利用者ニーズの把握状況	前年度並み	○外部講師の依頼を受けているか。→ Yes ○支援体制が構築されているか。→ Yes ・大学非常勤講師 17件(分館職員を含む) ・各種研修等講師 90件(分館を含む:開催場所館外の学校以外の講座等講師)	前年度並み	【課題】 講師派遣・外部支援に際しての、当館および相手方双方のメリットの向上。 【改善案】 当館の特性などをよく説明して相手方に御理解いただいた上で、相手方のニーズと当館の専門性・人材とがマッチするよう適切にコーディネートする。
有識者所見		・館活動の周知、向上が図れるので、要望には対応してください。共同研究、情報収集の機会づくりでもあります。【戸枝】			
<b>13.地域づくりへの支援</b>					
<b>①地域との連携事業</b>					
A. 機関・地域住民等との連携	・ 実施状況(種類と件数)  ・ ニーズの把握の状況	地域連携事業の実施	○地域との連携事業を行っているか→ Yes 【本館】 ・3館連携企画「ちば生きもの科学クラブ」(千葉市科学館、千葉市動物公園)20人  【大利根分館】 ・市民参画のイベントの開催(昭和の名車大集合Ⅲ 2,835人(2130人)  【大多喜城分館】 ・町のイベントへの協力(分館施設利用) <大多喜さくらまつり>1,625人 県立大多喜高校:茶道部 「茶席、マンドリンギター部「マンドリンギター演奏」 大多喜町有志:和琴、大正琴演奏 <大多喜お城まつり>1,313人 県立大多喜高校:茶道部 「茶席」 大多喜町有志:琴演奏 体験教室「甲冑・小袖の試着」15人	継続実施	【課題】 地域振興の拠点としての認知度の向上 【改善案】 本館:企画展等開催時、市内の社会教育機関・企業等との間に相互メリットのある連携を進める。 分館:所在地自治体と連携した事業の強化
有識者所見		・ニーズの把握と連携協力は共同研究や情報収集の機会づくりでもあります。【戸枝】			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目		②観光資源としての活用			
A. 県外団体来館数	・ 団体数 ・ 地域等の傾向	団体数100以上	○県外団体の利用：149件(109件) 【本館】11件(東京8、神奈川1、茨城1、大阪1)(16件) 【大利根分館】8件(茨城7、東京1)(10件) 【大多喜城分館】130件(東京72、埼玉26、神奈川19、茨城6、他7)(96件) * 団体申し込み票において確認(過小評価の可能性あり)	前年度並み	【課題】 当館来館を県外団体のツアー・コースに組み入れてもらうことにより、地域経済の活性化に貢献 【改善案】 首都圏の旅行社等への広報資料の提供
B. 外国人入場者数	・ 利用者数 ・ 地域等の傾向	750人以上	○外国人利用者数1,428人(734人)(括弧内は前年度) 【本館】92人(82人) 【大利根分館】33人(4人) 【大多喜城分館】1,303人(510人) * 視覚、事前情報をもとに計数(アジア系等計数漏れあり) 外国人向けには、本館と大多喜城分館で英文表記の利用案内パンフレットを用意している。	前年度並み	【課題】 多言語での案内パンフレットの印刷 【改善案】 印刷予算の要求を継続的に行う。
有識者所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、大利根、大多喜城の可能性が大きいと思われます。地域連携事業等、関連団体の広報先の把握、各地観光課等との情報交換の共有が必要です。【戸枝】</li> <li>・県庁観光部門や周辺事業者との協働をさらに進めるとともに、Wi-Fiの設置による利便性の向上を願いたい。【加藤】</li> </ul>				